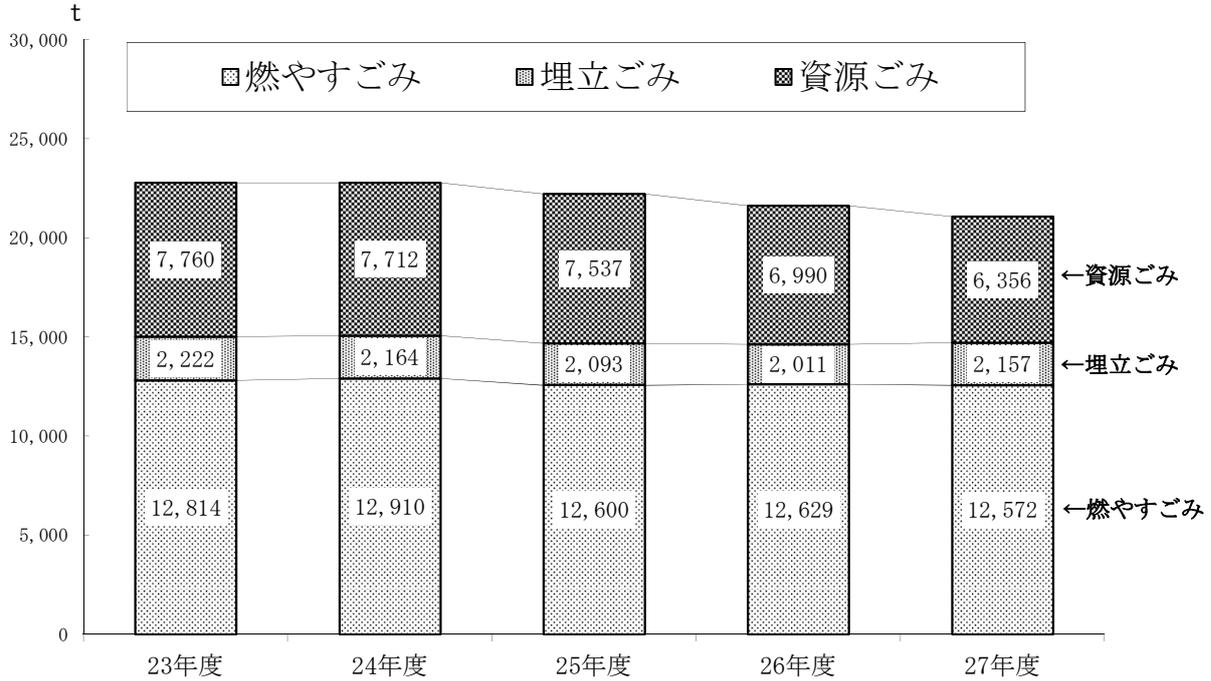


平成27年度 一般廃棄物の排出状況について

H28. 9. 12 総務委員会協議会
資料No. 3

1 人口及びごみの収集量の推移



項目	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	対前年度 比率 %		
人口 (9月末時点住民基本台帳人口+外国人登録人口) *	人	107,223	106,453	105,611	104,950	104,246			
ごみの収集量 (家庭系一般廃棄物) (C) (市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	計画値	t/年	25,200	21,950	21,529	21,190	20,896	-	
	実績値	t/年	22,796	22,786	22,230	21,630	21,085	97.5	
処分ごみ (A)	実績値	t/年	15,036	15,074	14,693	14,640	14,729	100.6	
	燃やすごみ	計画値	t/年	12,700	12,135	11,910	11,723	11,538	-
		実績値	t/年	12,814	12,910	12,600	12,629	12,572	99.5
	埋立ごみ	計画値	t/年	3,380	2,203	2,106	2,049	2,030	-
		実績値	t/年	2,222	2,164	2,093	2,011	2,157	107.3
	うち火災ごみ	実績値	t/年	3	18	8	0	120	
資源ごみ (B)	計画値	t/年	8,880	7,612	7,513	7,418	7,328	-	
	実績値	t/年	7,760	7,712	7,537	6,990	6,356	90.9	
	紙資源	実績値	t/年	4,908	4,804	4,686	4,179	3,599	86.1
	金属資源	実績値	t/年	587	571	551	511	478	93.5
	ガラスびん	実績値	t/年	425	415	401	416	404	97.1
	ペットボトル	実績値	t/年	80	78	74	65	53	81.5
	プラ資源	実績値	t/年	1,578	1,639	1,631	1,618	1,648	101.9
	特定ごみ	実績値	t/年	13	26	22	28	26	92.9
	生ごみ	実績値	t/年	169	179	172	173	148	85.5
	再資源化率 (B/C)	計画値	%	35.2	34.7	34.9	35.0	35.1	-
	実績値	%	34.0	33.8	33.9	32.3	30.1	-	
一人あたりごみの収集量 (家庭系一般廃棄物)	実績値	kg/人・年	212.6	214.0	210.5	206.1	202.3		
処分ごみ	実績値	kg/人・年	140.2	141.6	139.1	139.5	141.3	101.3	
	燃やすごみ	実績値	kg/人・年	119.5	121.3	119.3	120.3	120.6	100.2
	埋立ごみ	実績値	kg/人・年	20.7	20.3	19.8	19.2	20.7	107.8
資源ごみ	実績値	kg/人・年	72.4	72.4	71.4	66.6	61.0	91.6	

*平成24年度からは住民基本台帳人口に外国人含む

計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成19年度~23年度)及び同(平成24年度~28年度)による

2 分析

平成 27 年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は 21,085 トンで、前年度対比 545 トン、2.5%の減少となったものの、「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成 24 年度～28 年度）における計画値 20,896 トンとの比較では、189 トン上回りました。

（1）処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は 14,729 トンで、前年度対比 89 トン、0.6%の増加となりました。

平成 27 年度は、埋立ごみとして例年ほとんど搬入がない火災ごみを 120 トン受け入れたことから埋立ごみの収集量が増加し、全体の収集量も増加に転じましたが、この火災ごみを除いた場合の処分ごみの収集量は、前年対比 31 トン、0.2%の減少となります。

燃やすごみの収集量は、平成 24 年度をピークに、人口減少の影響も受けて横ばいで推移しています。平成 27 年度は前年対比 57 トン、0.5%の減少となりました。なお、排出の方法としては、ごみ焼却場へ直接搬入される方が増加しています。

埋立ごみの収集量は、平成 21 年度からは減少傾向が続いています。平成 27 年度は 7.3%の増加に転じましたが、これは火災ごみを 120 トン受け入れたことが影響したもので、火災ごみを除けば 26 トンの微増となります。

（2）資源ごみについて

資源ごみの収集量は 6,356 トンで、前年度対比 9.1%の減少となりました。中でもペットボトルの収集量が前年度対比 18.5%減少し、最も大きな減少率となりました。また、紙資源についても前年度対比 13.9%減少し、大幅な減少率となっています。

減少の主な理由は、その利便性から市内の大規模小売店舗などで行われている資源物の店頭回収を多くの市民が利用するようになったためで、平成 27 年度は大型量販店 2 店舗での店頭回収が開始された影響が出ています。この傾向はしばらく続き、一定程度の減少後に落ち着くと考えられます。

ガラスびんについては、全国の出荷実績（日本ガラスびん協会の調査）が前年度を上回り、流通・消費されましたが、当市においてはその影響は受けず、収集量は微減となりました。

また、プラ資源（プラスチック製容器包装）の収集量は、多くの商品にプラスチック製容器包装が使用されるようになっている影響も受けて、ほぼ横ばいから微増で推移しました。旧市内の一部地域において分別収集している生ごみの収集量は、横ばいから大きく減少しました。一時的なものであるのか、注視をしていきます。

（3）再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集量総量で除した再資源化率は 30.1%と、前年度より 2.2 ポイント減少しました。昨年度に引き続き、紙資源の収集量の減少が大きく数値に影響しています。

（4）一人あたりごみの収集量について

埋立ごみが前年対比 7.8%増加しましたが、多くの火災ごみを受け入れた影響です。